

たまねぎレポート【353号】



平成29年3月27日

阪南青果株式会社

社内報

2月の月平均気温は、北・東日本で高く、西日本、沖縄・奄美で平年並みだった。降水量は、西日本の日本海側で多く、東日本の太平洋側で少なかった。他は平年並みであった。降雪・積雪は、西日本の日本海側で多かった。北日本の日本海側でかなり少なかった。日照時間は西日本の太平洋側でかなり多く、北日本の日本海で少なかった。3月は3寒4温で寒暖の差が大きく、曇りや小雨の日が多い。東京では桜の開花は例年より早いと言うが、西日本では遅い地域が多く、地域により温暖に差があり、春の訪れはまちまちである。

気象庁が発表した4～6月の3ヶ月予報では、平均気温は、北・西日本と沖縄・奄美で高い。東日本で平年並み亦は高い。降水量は、東日本の太平洋側と西日本の日本海側で平年並み亦は少ない。月別予報は次の通り。

4月、全国的に天気は数日の周期で変わる。北日本の太平洋側では、平年

と同様に晴れの日が多い。東日本の太平洋側と西日本も平年に比べ晴れの日が多い。

5月、北日本と東日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わる。東日本の日本海側と西日本では、平年と同様晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年同様に曇りや雨の日が多い。

6月、北日本と東日本の日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

2月の主要5大都市中央卸売市場の野菜の入荷は、福岡市場以外は前年を下回った。平均単価は前年比高安まちまちであったが、総ての市場で前月比高となっている。市場別に入荷量と価格は、札幌市場の入荷は前年比96%、平均価格はkg¥194前年比107%。東京市場は前年比97%の入荷で、平均価格はkg¥256前年比99%。名古屋市場は前年比95%の入荷で、平均単価はkg¥237前年比100%。大阪本場の入荷は前年比93%で、平均単価はkg¥250前年比103%。福岡市場の入荷は前年比116%平均単価はkg¥182前年比89%となっている。

主要市場の2月の玉葱入荷は、主力の北海道物の入荷にバラツキがあり、市場別には増減があった。平均単価はいずれの市場も、前年比、前月比高であった。市場別では、札幌市場の入荷は5,146トン前年比124%、平均単価はkg¥66前年比108%。東京市場は11,722トンの入荷で前年比106%、平均単価はkg¥104前年比106%。名古屋市場の入荷は6,218トン前年比97%、平均単価はkg¥87前年比102%。大阪本場の入荷は3,746トン前年比88%、平均単価はkg¥95前年比103%。福岡市場の入荷は4,234トン前年比145%、平均単価

はkg¥94前年比113%となっている。

日本農業新聞社が集計した、全国主要7都市の代表荷受7社の、主要野菜14品目の2月の販売量は、84,760トン前年比104%(前月比98%)。平均単価はkg¥158前年比101%(前月比104%)で、ほぼ平年並みの水準であった。入荷が前年比増となった品目は、ホウレンソウが前年比128%、タマネギが121%、ピーマンが120%、など9品目(前月は11品目)。前年比減となった品目は、キャベツが前年比87%、ネギが89%、ナスが94%など5品目(前月は3品目)。価格が前年比高であったのは、キャベツが前年比181%、ニンジンが151%、ハクサイ、バレイショが129%など5品目(前月は7品目)。前年比安であった品目はキュウリが前年比69%、ピーマンが71%、サトイモが72%など8品目(前月は7品目)。玉葱は、入荷が前年比120%で、価格はkg¥88前年比99%となっている。

東京都中央卸売市場の2月の野菜の入荷は、117,268トン前年比97%(前月比95%)であった。一部の品目を除き順次平年並みの水準に復帰した。主要品目で前年比増となった品目は、ホウレンソウが前年比125%、ピーマンが115%、レタスが110%など7品目(前月は10品目)。前年比減となった品目は、ネギが前年比86%、ニンジンが87%、キャベツが88%など7品目(前月は5品目)。平均単価はkg¥256前年比99%(前月比102%)で、旬別では上旬¥254(前年比97%)、中旬¥259(前年比100%)、下旬¥256(前年比100%)。総じては、前年並みの水準に値下がりをした。なお、主要品目の入荷量と平均単価は次表の通りである。

東京都中央卸売市場の2月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	117,268	97.4	94.6	256	98.5	101.6
た ま ね ぎ	11,722	106.2	113.3	104	106.4	107.2
キ ャ ベ ツ	13,889	87.5	93.9	129	192.7	121.7
だ い こ ん	11,607	95.0	88.3	90	113.6	111.1
は く さ い	11,287	101.8	81.7	99	161.2	106.5
レ タ ス	6,870	109.5	87.1	231	74.5	105.5
ば れ い し ょ	6,604	95.1	90.9	227	125.0	114.7
に ん じ ん	6,243	87.1	92.0	161	174.3	103.9
ト マ ト	5,447	101.1	104.3	404	85.3	95.3
き ゆ う り	5,040	101.6	102.6	316	70.7	80.2
ね ぎ	4,115	85.9	79.2	330	119.6	101.9
か ぼ ち ゃ	2,370	86.9	105.6	181	96.8	98.9
な が い も	725	81.8	106.0	454	126.7	70.5
れ ん こ ん	635	80.4	105.3	678	115.2	105.3
に ん に く	307	81.1	114.6	1,165	110.1	100.4

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の2月の玉葱の入荷は、11,722トン前年比106%（前月比113%）で順調であった。静岡物が前年並みの入荷で予想を下回った。主力の北海物の入荷は9,693トン前年比106%、占有率は83%で前年と同じ。静岡物の入荷は1,538トン前年比101%、占有率は13%で前年比1ポイントダウン。中国物の入荷は213トン前年比112%、占有率は2%で前年と同じ。長崎物は135トンの入荷で前年比198%、占有率は1%。平均単価はkg

¥104前年比106%(前月比107%)で、相場は総じて強含みで推移した。産地別の月平均価格は北海物がkg¥84で前年比117%、静岡物はkg¥212前年比90%、中国物はkg¥95前年比84%。長崎物はkg¥218で前年比116%であった。亦、旬別では、上旬の入荷は前年比107%で平均単価はkg¥100。中旬の入荷は前年比115%で単価は¥103。下旬の入荷は前年比95%で減少傾向に転じ、単価は¥110で、相場はザリ高歩調となった。

3月に入り、北海物の入荷が減少傾向となったことや、静岡の早生物がピークを過ぎたほか、続く長崎、佐賀の早生物が生育遅れで、入荷が後ズレしたことで、市況は品薄高傾向となった。上旬は静岡物の入荷が途切れる日があったし、長崎物は少量で、指値が高く売り込みが出来る状況でなく、主力の北海物は、予想外の在庫減か、4~5月の需要増を見込んでか、入荷減が続き市況はザリ高傾向となった。現在、市況は頭打ちの状態だが、北海物の入荷は依然として減少傾向で、ホクレンに出荷を要請しても増加は期待出来ず、品薄高が解消されそうにない。長崎、佐賀は生育遅れと、降雨続きで入荷は少ないものの、高値のため引き合い弱く動きは鈍い。1~20日までの玉葱の入荷量は、7,188トン前年比94%、産地別では北海が前年比93%、静岡が94%、長崎が90%、佐賀が59%となっている。平均単価は上旬がkg¥122前年比127%、中旬は¥129前年比131%で品薄高相場が続いている。

名古屋市場

名古屋市中心卸売市場の2月の玉葱の入荷量は、6,218トン前年比97%(前月比97%)で少なめであった。北海物主力の販売で、北海物の入荷は5,672トン前年比97%、占有率は91%で前年と同じ。静岡物は477トンの入荷で前年比102%、占有率は8%で前年比1ポイントアップ。愛知物は55トンの入荷で前年比92%、占有率は1%で前年と同じ。平均単価はkg¥87前年比102%(前月比109%)で前月に続き強保合で推移した。産地別の平均単価は、北海物はkg¥75で前年比107%、静岡物はkg¥218で前年比88%、愛知

物はkg¥226で前年比108%となっている。

3月に入って、北海物の入荷は減少傾向が続き、計画を大きく下回っており、産地は出荷要請にも応じる様子はなく、相場はじり高歩調となった。静岡物は終盤となり日量5～6トン程度に減少し、早生物は順次愛知物に移行している。地場の愛知物は少量ながら連日の入荷となり、高値販売が続いている。現在も、北海物の入荷は減少傾向で、高値販売に努めているが、更なる高値は需要減を招くことになり、苦しい販売環境に直面している。生育が遅れていた愛知物は、4月からは日々増加傾向になると予想しているが、産地は高値望みで指値は高く、苦しい販売となりそうだ。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の2月の玉葱の販売量は、3,746トン前年比88%(前月比105%)で、新物の静岡物は前年を上回ったが、主力の北海と、淡路の冷蔵物は前年を下回った。北海物の入荷は、3,100トン前年比86%、占有率は83%で前年比2ポイントダウン。静岡物の入荷は315トン前年比119%、占有率は8%で前年比2ポイントアップ。兵庫物の入荷は279トン前年比87%、占有率は7%で前年比1ポイントダウン。長崎物は45トンの入荷で前年比102%、占有率は1%。平均単価はkg¥95前年比103%(前月比101%)で、北海物は出荷の前倒しと歩留り率低下で、在庫は少なくなったとの産地情報からチリ高で推移した。他方、淡路の冷蔵物と静岡の新物はチリ安となった。産地別では、北海物はkg¥78で前年比113%、兵庫物はkg¥126で前年比60%、静岡物はkg¥211で前年比87%となっている。

3月に入り、静岡物は終盤を迎え入荷は減少傾向となったが、相場は弱含みに転じた。淡路の冷蔵物にも品質劣化の銘柄があり弱保合の動きとなる。長崎の新物は入荷が少なく保合状態が続く。北海物は入荷にバラツキがあるものの、転送需要が活発で、品薄傾向が続き引き合い強く、相場はジリ高基調となった。月半ばになっても、長崎、佐賀の新物の入荷は、予想外に少なく相場は保合で

推移。北海物は、品薄高傾向が続いているものの、品質格差があり高値¥2,700安値¥2,300と値開きが大きい。此処に来て、淡路の冷蔵物は良質の銘柄に集約され強保合に、長崎、佐賀物は入荷が増えず保合、北海物は2Lは弱保合、L大、L、Mは保合の動きとなっている。1日～20日までの集計値では、入荷量は2,718トンで前年比82%。平均価格はkg¥113で前年比126%となっている。産地別の入荷は、北海物は前年比79%、静岡物は97%、淡路物は113%、長崎物は90%、佐賀物は60%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の2月の玉葱の入荷は、4,234トン前年比145%(前月比120%)で増加傾向であった。主力は北海物で、北海物が入荷は3,720トン前年比138%、占有率は88%で前年比4ポイントダウン。中国産は202トンの入荷で前年比231%、占有率は5%で前年比2ポイントアップ。長崎物は127トンの入荷で前年比231%、占有率は3%で前年比1ポイントアップ。平均単価はkg¥94前年比113%(前月比104%)で堅調に推移した。産地別では、北海産はkg¥85で前年比112%。中国産はkg¥76で前年比72%、長崎物はkg¥149で前年比82%となっている。

3月に入ると、長崎物が入荷が本格化する時期だが、今年は2月の早や出しは前年を上回ったものの3月に入ってから予想より少ない。銘柄別の品質格差が大きく、相場は上値、下値の開きが大きく10kg¥700前後にも達する状態となった。北海物は、増量販売を続けているが、引き合い強く品不足状態が続いている。現在は、長崎、佐賀物が入荷は日々増加し、一部の銘柄に高値はあるものの、安値の銘柄が増えている。依然品質格差があり、捌き切れない状態に追い込まれつつある。北海物は依然荷動きが活発で品不足状態にある。ホクレンに出荷要請するも、2L主力でL大、Lが品不足で数量確保に苦労している。1日～20日の玉葱の販売量は2,846トンで前年比227%、平均単価はkg¥102前年比105%となっている。

3月24日(金)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷186トン、保合

北海道 20kgDB2L¥1,900～1,500、 L大 ¥2,300～2,180、 L ¥2,300～2,180、
M¥1,250～

北海道 20kgNT2L¥1,650～1,450、 L大 ¥1,880～1,850、 L ¥2,050～1,900、
M¥1,350～1,250。

【太田市場】 入荷275トン、弱い

北海道 20kgDB2L¥2,300～2,200、 L大 ¥2,500～2,400、 L ¥2,500～2,400、
M¥2,000～

長 崎 10kgDB2L¥1,800～1,600、 L ¥2,000～1,800、 M ¥1,700～1,600。

佐 賀 10kgDB2L¥1,800～1,700、 L ¥2,100～2,000、 M ¥1,800～1,700。

【名古屋北部】 入荷55トン、強い

北海道 20kgDB2L¥2,300～2,200、 L大 ¥2,600～2,500、 L ¥2,600～2,500、
M¥2,200～2,100。

静 岡 10kgDB2L¥1,900～1,800、 L ¥2,400～2,300、 M ¥2,000～1,900。

愛 知 10kgDB2L¥1,800～1,700、 L ¥2,300～2,200、 M ¥1,900～1,800。

【大阪本場】 入荷50トン、強い

兵 庫 10kgDB2L¥1,800～1,500、 L ¥1,800～1,500、 M ¥1,600～1,400。

北海道 20kgDB2L¥2,500～2,300、 L大 ¥2,700～2,500、 L ¥2,700～2,500、
M¥2,100～2,000。

静 岡 10kgDB2L¥2,000～1,900、 L ¥2,400～2,300、 M ¥1,900～1,800。

長 崎 10kgDB2L¥1,700～1,600、 L ¥2,000～1,800、 M ¥1,700～1,600。

佐 賀 10kgDB2L¥1,800～1,700、 L ¥2,100～2,000、 M ¥1,800～1,700。

【福岡市場】 入荷153トン、保合

北海道 20kgDB2L¥2,500～2,200、 L大 ¥2,800～2,500、 L ¥2,800～2,500。
M¥2,200～

長崎 10kgDB2L¥1,600～1,000、 L ¥2,000～1,500、 M ¥2,000～1,300。

佐賀 10kgDB2L¥1,800～1,500、 L ¥2,300～1,800、 M ¥2,000～1,500。

供給(産地)の動き

2～3月の玉葱市況は、意外に堅調に推移した。九州産地の早生物の減反と生育不良の情報で、北海道産地では昨年以上の春高市況の期待が強まり、出荷を先送りしたことや、長崎、佐賀の早生物の出荷が後ズレしたことで、相場は2月から堅調に転じ、3月は一段高の展開となった。北海道産地の地場市場である札幌市場関係者の間でも、越年在庫が豊富と聞いていた道東や上川の産地在庫が何故急減したのか？との疑惑の声が高まるほどに急変し、各地の市場が品薄高となった。府県の早生は、先駆けとなった静岡は計画通り前進化し、すでに終了が近い。続く長崎は生育遅れで出荷は後ズレしているものの、例年に比べると格別の発生率は低く品質向上から、通期の出荷量の落ち込み率は低いと予想されている。問題は昨年未曾有のべト病被害に見舞われた佐賀の動向である。天候不良に依り10%の減反となっているが、現在の作柄は、一部べト病の発生が散見される圃場があるものの、昨年と異なり現地では産地存亡の危機感が浸透し、病害球の抜き取りや、薬剤散布など懸命な防除を続けているので、前年ほどの被害は発生しないと予想されている。

北海道産地

現在、出荷の主力は道東地区で、次いで上川地区でその他の地区では終了が近い。3月の出荷は計画を下回ったことで、産地在庫は少ないとの見方が大勢を占めている。在庫を持つ産地関係者の間では、4～5月の高値を期待している。前年並み亦は上回る生産量で越年在庫は豊富とされていたが、昨今の

需給はタイトになり高値市況が続いている。産地では市場の好環境を反映して、次シーズンの栽培意欲は旺盛である。今春の残雪は、道東では昨年よりやや多いが、空知、石狩では少ない。いずれの地区も播種、育苗が順調で、定植は前進化する予想である。早や出し出荷となる極早生の種不足で、極早生の作付けはやや減反の可能性はあるが、全道的な作付けは増反の気配である。

府県産地

静岡は出荷が終了し、4月の主力は長崎、佐賀に移行する。何れの早生産地も、生育に遅れは見られるものの、気温の上昇とともに回復歩調にある。JA佐賀の作付面積は、1,705ha前年比91%、うち極早生は235ha前年比94%、普通早生は621ha前年比92%、中晩生は849ha前年比89%。反収は控え目で4トン进行予想。早生の生育は、やや遅れているものの葉鞘は前年に比べ太くて色が濃く、前年以上の反収が期待されている。一部圃場でベト病に依る葉枯れが見受けられるものの、全体的には病害の被害は前年に比べ少ない。中晩生の生育はかなり遅れている。JA白石の出荷計画は前年比180%。

中晩生が主力の淡路島の作付面積は1,490ha前年比100%、うち早生系274ha、中生系904ha、晩生系300ha、赤玉系12haとなっている。生育は平年並みだが、生産量は78,940トン前年比92%と控え目の予想である。

主力産地は減反傾向にあるが、中小の新興産地の多くは増反傾向にある。

外国産地

2月の輸入は、速報値で、19,290トン前年比120%。国別の輸入量では、中国が17,614トン前年比120%。アメリカが834トン前年比181%、タイが816トン前年比120%、ニュージーランドが26トン前年比10%となっている。

中国、現在、産地は甘肅省から雲南省に移行している。雲南省では収穫量が予想ほどの伸びはなく、韓国からの引き合いが強く、価格は値上がり傾向にある。甘肅省は在庫が少なく価格は横這い。日本向けは現在も週間5,000トン前後で価格は、ムキ玉20kg・C&F・雲南産\$12.00、甘肅産\$9.20。

ニュージーランド、府県産の早生の生育不良の情報で、昨年同様4～6月の需給がタイトになるとの思惑から、日本からのオファーが活発化している。現地からの情報では、現時点までの船積みは、主力の欧州向けは、前年比74%、日本向けは177%と報告されている。現在、日本向け価格は、20kg・C&F・¥1,100～1,150。で大きな変化はない。前年4～7月の輸入量は、14,931トンで今年も同量亦は上回る可能性がある。

4月の市況見通し

3月市況は北海道産地が、4～5月の販売量確保のため、2～3月の出荷を抑制したことや、長崎、佐賀の出荷の後ズレから需給タイトになり、相場は予想外の値上り基調となった。傍目にはホクレンの販売戦略が功を奏したと思われる。この先市況は、府県の早生物は出回り増で頭打ちから軟化に転じる。北海物も大幅減とならない限り追随安となる可能性が高い。4月の中心相場は、北海物20kg・L大 ¥2,500～2,300。府県物10kg・L ¥1,500～1,300の予想。(了)